

新大分スタンダードに基づいた 授業づくり



※配布資料には、写真等のスライドは添付していません。

令和5年7月13日(木)
竹田教育事務所

今日の流れ

講義・演習（40分）

（1）新大分スタンダードが提示された背景（5）

（2）新大分スタンダードについて（15）

① 1時間完結型

② 板書の構造化

③ 習熟の程度に応じた指導

④ 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

（3）講義内容を生かして「授業シート様式A」を作成（20）



「新大分スタンダード」とは？

新大分スタンダードが提示された背景

(平成22年当時の課題)

本時のめあてが
明確でない授業

本時のまとめが
明確でない授業

区切りのいいところまで進めるために
授業時間を10分、15分超過する授業

板書をノートに
書き写しても
思考の整理が
できにくい板書

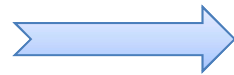


平成22年

「低学力層の児童生徒に優しい3つの授業改善」

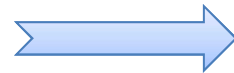
平成22年 「低学力層の児童生徒に優しい3つの授業改善」

① 「1時間完結」型授業の徹底



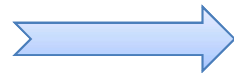
ゴールを見通せることで、安心して学習できる

② 板書の構造化、板書とノートの一体化



「視覚」の困難が低減され、安心して学習できる

③ 習熟の程度に応じた指導の強化



多くの困難が低減され、安心して学習できる



平成25年 「大分スタンダード」に呼称変更

(平成26年当時の課題)

教師主導の授業

教師から児童生徒への一方向の授業

主体的・協働的な学習過程の中で
思考力・判断力・表現力等を育成する必要がある → ④を追加

平成26年9月 「新大分スタンダード」

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の魅力ある授業

- ① 「1時間完結」型授業
- ・ 「めあて」と「振り返り」のある授業
 - ・ 「課題」と「まとめ」のある授業

②板書の構造化

③習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実

④問題解決的な展開の授業

ゴールを
明確にして
ブラッシュ
アップ

生徒指導の3機能を意識して

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1_1 時間完結型

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2_板書の構造化

- *思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3_習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫

4_生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

- *各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
 - ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
 - ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充



育成すべき資質・能力を見据え、授業の「ねらい」に即したICT活用

子ども主体の学びを支援
情報活用能力の育成

ICTの効果的な活用

- *各教科等の特質や学習過程を踏まえた活用
- *子どもの学びを広げ、深める活動で活用(思考の可視化、意見交流、学習の記録等)
- *子どもの興味・関心、実態に応じた活用



1時間完結型

めあて

単元(1単位時間)の学習の見通しをもたせ、意欲を高めるもの
・本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」
(例 ~しよう)

課題

その時間に解決すべき事柄
・子どもが追究すべき事柄を明確にする
(例:なぜ~なのか、~するにはどうすればよいか)

学習活動

学習形態 言語活動
発問の在り方 教材・教具の工夫 等

まとめ

本時の課題に対する答え
・追究した結果を明確にする

振り返り

めあてに対するふりかえり。
・児童生徒に本時の学びを振り返らせ、自覚させるもの
・学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につなげられるよう視点を設定することが望ましい。

呼応関係

呼応関係



本時のねらいには、
右の3つの要素を入れます。

①ねらいについて

[ねらいの書き方の例]

- A 学習内容(～を、～について)
- B 学習活動(〇〇を通して、〇〇でまとめて、〇〇と比べて)
- C 育成を目指す資質・能力(△△できるようにする、△△に気付くようにする、△△を高める等)

※A～Cの3つの要素を入れる。

※Bにおいては、「順序付ける、比較する、分類する、関連付ける、多面的に見る、多角的に見る、理由づける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する」等の「考えるための技法」を意識する。

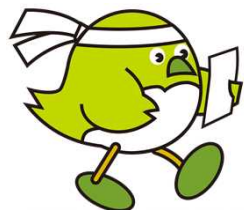
(1)ねらい

A 三角形の midpoint どうしを結んだ線分の性質を、

B 相似や平行線の既習事項と関連付けて考察することを通して

C 相似な三角形や平行線と線分の比の性質を用いて説明することができるようにする。

※語尾は教師の立場で書きましょう!



② 評価規準について

<ポイント>

本時の評価規準は、本時のねらいと対応させましょう。
(ねらいのBの部分を省いたような内容になります。)

「概ね満足できる状況(B)」とする生徒の状況(姿)
を想定し、設定しましょう。

(2) 本時の評価規準

<豆知識>

ちなみに「説明する」ときの評価基準は…

数学では「**説明できる**」という言い方ですが、その他の教科(算数を含む)では「**説明している**」という表現になります。

三角形の midpoint どうしを結んだ線分の性質を、相似な三角形や平行線と線分の比の性質を用いて説明することが

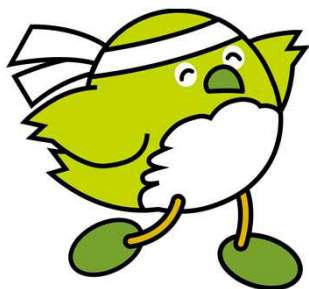
できる。

【思考・判断・表現】

さらに、次の点について具体的にしておきましょう。

- 授業のどの場面で、どんな方法で評価するのか
- 本時の評価は、指導に生かすものか、評価の記録に残すものか
- 具体的にどんな姿(または記述など)があればA評価なのか
- B評価に到達していない児童生徒にはどのような支援(手だて)が必要か

※評価規準のフォーマット(語尾)は、教科ごとに違います。「早わかり!単元計画~」の3を参考にしてください。(または『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の第2編2②を参照)



③「めあて」について

1時間完結型

めあて

単元(1単位時間)の学習の**見通し**、既習事項との比較(例 ~しよう)
(学習の見通しをもたせ、意欲を高める)

★基本的に、本時の学習で何を学ぶのか見通すための「めあて」は、毎時間必ずあります。

(ただ、例えば、単元を見通した「めあて」を設定し、本時の授業が始まる前から、その「めあて」が意識されているのであれば、確認するだけでよい場合もあります。)

★「めあて」に呼応して、振り返りも毎時間設定します。

呼応関係

課題

子どもが追究すべき事柄を**明確**にする
(例 ~するにはどうすればよいか)

呼応関係

学習活動

学習形態 言語活動
発問の在り方 教材・教具の工夫 等

まとめ

本時の**課題**に対する**答え**(追究した結果を明確にする)

振り返り

めあてに対するふりかえり。
(ノート等を書く、話す。振り返らせる視点は教師のねらいに応じて設定)

④「課題」について



児童生徒にとって魅力ある「課題」にしましょう!

魅力ある課題って?

- ・生徒が追究したい(調べてみたい、考えてみたい)と感じるもの
- ・児童生徒が解決のための見通しをもつことができるもの
- ・児童生徒の興味・関心や意欲を高めることができるもの

課題とは、その時間に解決すべき事柄です。

★「なぜ～なのか」「～することができるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示すことが多い

(※課題には、内容のまとまり等の複数時間にまたがり追究していく課題もあり得ます。)



⑤「まとめ」について

児童生徒自身の言葉による「まとめ」をしましょう

- ① 「課題」に対する「まとめ」を、まずは、児童生徒**自身**の**言葉**で自分のノートに書かせる。
- ② 児童生徒の「まとめ」に修正が必要な場面では、児童生徒が自分で書いた「まとめ」は消させず、その下に書かせる。

※ 自分のまとめ ⇔ 先生のまとめ

「まとめ」の方法

- ① **キーワード**指定してまとめる
- ② **文の書き出し**を指定してまとめる
- ③ **字数**を制限して、まとめる など

⑥「振り返り」について



「振り返り」とは

本時の学びを振り返らせ、自覚させるものです

△単に「感想を書きましょう」とすると、「おもしろかった」「楽しかった」などの反応が多くなりがちです……。

そこで

学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげられるように、具体的な視点を設けると、より効果的な振り返りになります。

(具体的な視点のポイント)

現在、過去、未来という視点で考えてみましょう

- 学習のプロセスや成果を振り返る(現在)
- 過去の経験や学習と関連付ける(過去)
- 次回の学びへつなげる(未来)



本時のねらいに合わせて、教師がどう問うかを大事に

「振り返り」の具体例

- ・何がわかったか（学んだことは）
- ・何が大切か
- ・何ができるようになったか
- ・友達の考えから学んだことは
- ・新しい発見や疑問に思ったことは

現在

- ・既習事項とどんな関連があるか
- ・日常生活（身の回り）との関連は

過去

- ・もっとやってみたい（調べてみたい）ことは
- ・改善するには何が必要か

未来

板書の構造化・板書とノートの一体化

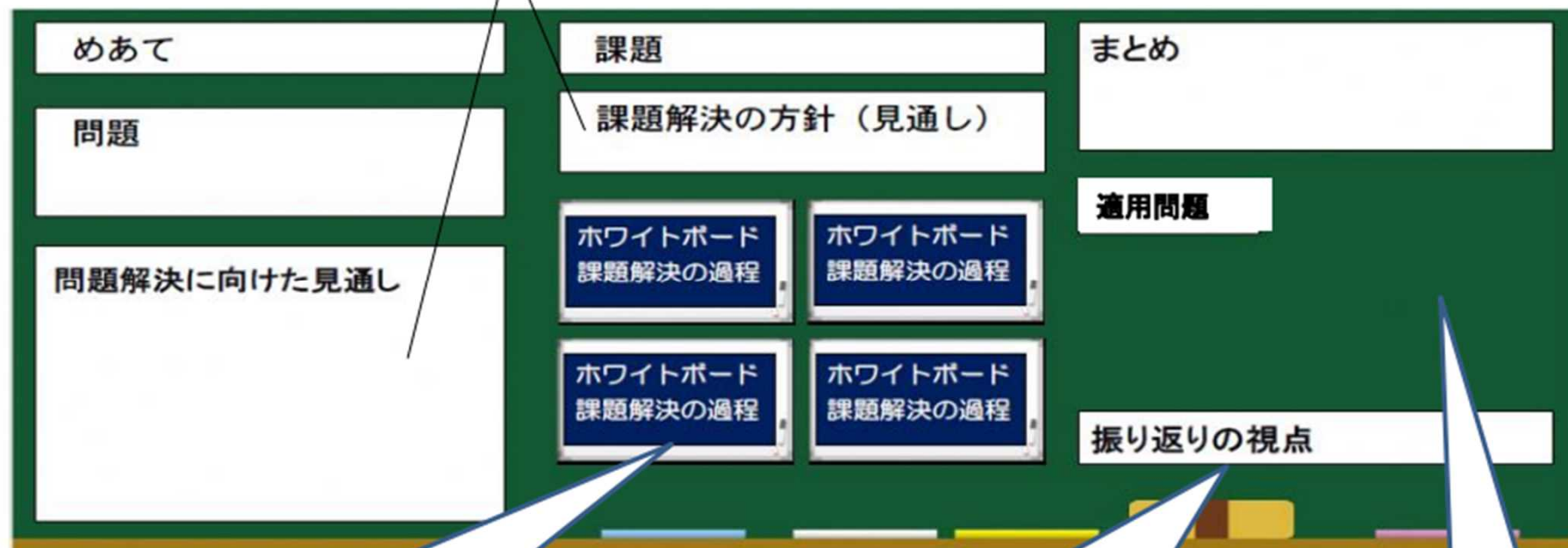
- ① 思考を整理したり、促したりする板書
- ② 思考の過程を振り返ることができる板書
- ③ 児童生徒がノートにまとめやすい板書
(板書とノートの一体化)

※ ワークシートの整理やノート指導も大切！

【数学 板書のイメージ例】

既習事項を振り返ったり、既習事項との関連に気付かせたりして、解決への見通しを持たせる。

「問題文に対しての解決の見通し」あるいは、「課題に対しての解決の見通し」を持たせる。
1単位時間に両者の見通しを持たせる必要はない。



生徒同士が互いの考えを比較したり、関連させたり、まとめたりしながら学習が展開できるように、それぞれの考えが見えるように位置付ける。

振り返りの場面では、生徒自身が本時の学びの成果を実感でき、学んだこと等を次につなげられるよう振り返りの視点を設定する。

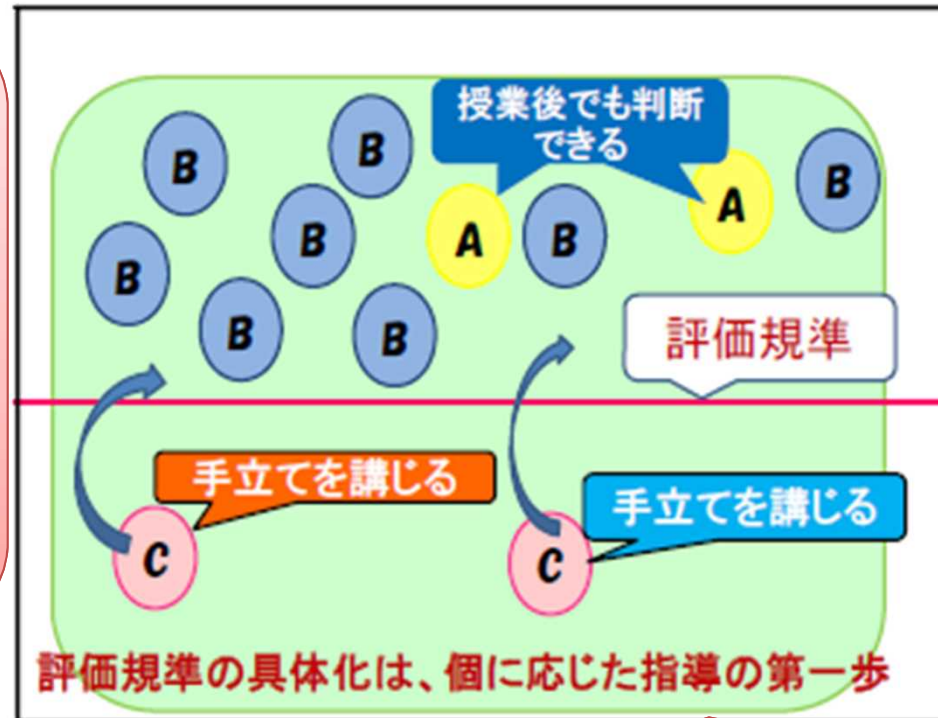
適用問題を通して、ねらいを達成できたかを確認する。

習熟の程度に応じた指導

- * 「**具体的な評価規準**」に基づく確かな見取り
- * 「**努力を要する状況**」の児童生徒に対する手立ての工夫

評価規準を
具体的に設定する
ことが大事！

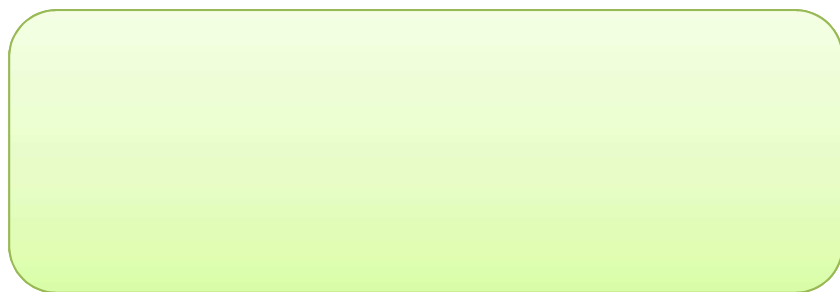
↓
本時の評価が
短時間で
的確にできる



評価規準に照らし合わせて、「C 努力を要する状況」の児童生徒をまず見だし、**手立てを講じ**、「B 概ね満足できる状況」にすることが大切です！

(工夫例) 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫

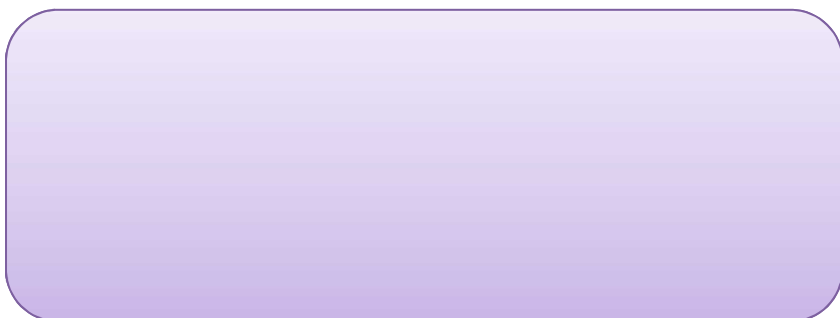
・興味や関心をもちにくい



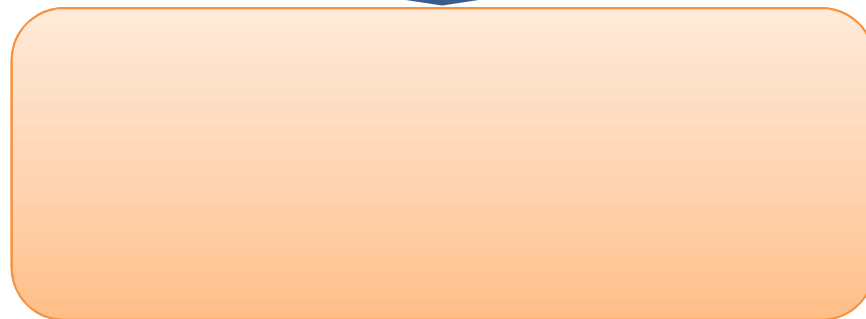
・問題の意味をつかみにくい



・自分の考えがもてない



・ノートをうまくまとめられない



生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業

- ① 学ぶ意欲を引き出す課題設定
(考えてみたい・やってみたい・やり甲斐がある)
- ② 課題解決のための情報収集
(資料検索、実験・観察、体験、話し合い等)
- ③ ②の整理分析(比較・分類・序列化・類推・関連付け等)
- ④ ③で考えたことや分かったことのまとめ・発信・交流
- ⑤ 学習の成果を実感させる単元の振り返り及び評価

生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業

自然と生徒主体の授業、問題解決的な展開の授業になるはず

1 自己決定の場を与える

課題に対して、追究し自分の考えをもつ



2 自己存在感を与える

個々の活躍の場(発表・発信)・成就感
個に応じた指導



3 共感的人間関係を育む

交流し、他者を認め合い、励まし合い
新しい考えを創造



(演習)

講義内容を生かして、
「授業シート様式A」
を作成しましょう

- (1) 個人で考える(10分)
- (2) ペア交流(3分)
- (3) 全体交流(5分)
- (4) 担当より(2分)





これで
「新大分スタンダードに
基づいた授業づくり」を
終わります

この研修の「振り返り」は、
研修アンケート(QRコードから)に
記入をお願いします。

